

125 弟子たちへの教え(4)

ルカによる福音書 12 : 35~48、マタイによる福音書 24 : 45~51 (忠実な僕と悪い僕)

→弟子たちへの教え：①No.122 恐れずに証しをせよ、②No.123 貪欲に注意せよ、③No.124 心配するな

ルカによる福音書 12 : 35~48 (目を覚ましている僕) →弟子たちへの教え：④その日に備えよ

35 「腰に帯を締め、ともし火をともして (常に怠りなく、いつでも準備して) いなさい。

→腰に帯を締め (≒帯をギュッと固く締めて気合を入れる) : 帯にトゥニカ (長服) をたくしあげて⇒忠実に役目を果たしていることの比喩的表現 (出エジプト記 12 : 11)

→出エジプト記 12 : 11

それを食べるときは、腰帯を締め、靴を履き、杖を手にし、急いで食べる。これが主の過越である。

→すそからげ (裾絡げ) : 動きやすいように、着物の裾の両端を持ち上げて帯に挟むこと。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 6 / 聖句等の総数 33250 (腰に帯を締め)6個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : 腰に帯を締め]
K 列王記下	4:29 そこでエリシャはゲハジに命じた。「腰に帯を締め、わたしの杖を手に持って行きなさい。だれかに会っても挨拶してはならない。まただれかが挨拶しても答えてはならない。お前はわたしの杖をその子供の顔の上に置きなさい。」	
K 列王記下	9:1 預言者エリシャは預言者の仲間の一人を呼んで言った。「腰に帯を締め、手にこの油の壺を持って、ラモト・ギレアドに行きなさい。」	
K エレミヤ書	1:17 あなたは腰に帯を締め、立って、彼らに語れ、わたしが命じることをすべて。彼らの前におののくな、わたし自身があなたを、彼らの前でおののかせることがないように。	
K エゼキエル書	23:15 彼らは腰に帯を締め、頭には端を垂らすターバンを巻いており、皆、指揮官のようであった。彼らはカルデア出身のパピロン人の様子をしていて。	
S ルカによる福音書	12:35 「腰に帯を締め、ともし火をともしていなさい。」	
S ルカによる福音書	17:8 むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなからうか。	

【参考】トゥニカとトガ

庶民の男性は、正装として腿丈の「トゥニカ」(右下図)の上から無地無染色の自然のままの羊毛の色(濃いベージュ)の「トガ」(右上図)を着た。トガを着つけるのは非常に煩わしかったので、BC1世紀頃からは日常ではトゥニカを二枚重ね着したり、ギリシア風外套を着るのが普通になった。トゥニカは古代ギリシアのキトンから発展したもので、ウールでできた大判のTシャツのような服で、五分袖から七分袖程度の袖が付き、膝下丈(労働時にはベルトでたくしあげて膝上丈)で着た。袖や裾が長いものは軟弱だとされ嫌われた。



トガが現在のスーツなら、トゥニカはシャツとジーンズのようなもので、貧しい市民はトゥニカだけを衣類とした。

36 主人が婚宴(→結婚披露宴)から帰って来て(→携挙)戸をたたくとき、すぐに開けようと待っている人のようにしていなさい。

37 主人が帰って来たとき、目を覚ましているのを見られる(門番の)僕たちは幸いだ。はっきり言っておくが、主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる。

38 主人が真夜中に帰っても、夜明けに帰っても、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。

→(NIV) It will be good for those servants whose master finds them ready, even if he comes in the middle of the night or toward daybreak.

→(NKJV) And if he should come in the second watch, or come in the third watch, and find them so, blessed are those servants.

→ (回復訳) また、彼が**第二の夜回り**の時か、**第三の夜回り**の時に帰って来ても、奴隷たちがそのようであるのを見られるなら、幸いである。

→ (真理発見訳) 彼が**第二見張り**時に、あるいは**第三見張り**時にやって来ても、彼らがそのようにしているところを見いだされるなら、その者たちは幸せです。

夜回り (午後六時から翌朝六時までの 12 時間) の時間は、三時間ずつに四分割していた。

第一の夜回り (見張り) : 午後 6 時から午後 9 時

第二の夜回り (見張り) : 午後 9 時から午前 0 時 : 真夜中

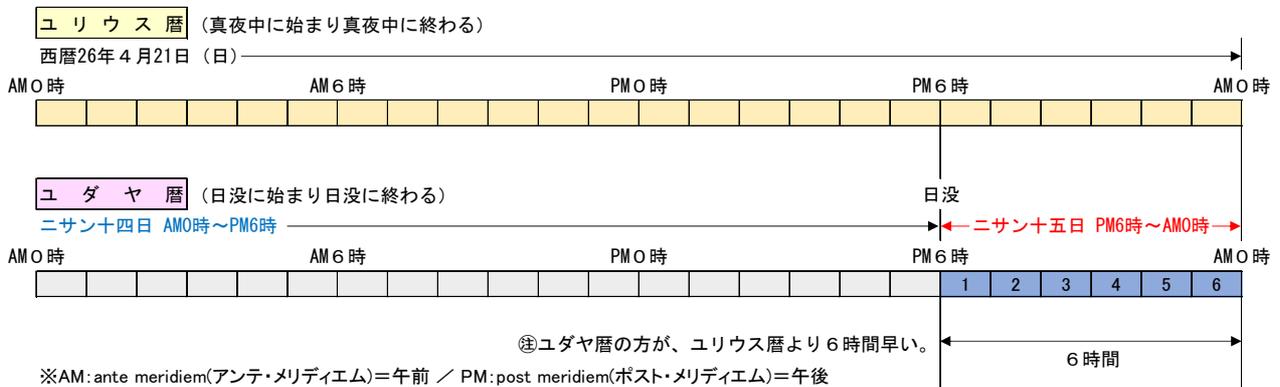
第三の夜回り (見張り) : 午前 0 時から午前 3 時 : 夜明け

第四の夜回り (見張り) : 午前 3 時から午前 6 時

PM 6	PM 7	PM 8	PM 9	PM 10	PM 11	AM 0	AM 1	AM 2	AM 3	AM 4	AM 5	AM 6
第一の夜回り			第二の夜回り			第三の夜回り			第四の夜回り			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	

【参考】ユリウス暦とユダヤ暦

ユリウス暦とユダヤ暦の日付・時間の違い(変換時の慣例)



39 **このことをわきまえて** (→弁えて:十分に心得て) **いなさい** (→新改訳:知っておきなさい)。**家の主人は、泥棒がいつやって来るかを知っていたら、自分の家に** (土壁に穴をあけ、掘り抜いて中に入って来る泥棒を) **押し入らせはしないだろう。**

40 **あなたがたも用意していなさい。人の子** (→イエス・キリスト) **は思いがけない時に来るからである。」**

41 そこで (イエスが最初に選んだ弟子の一人の) ペトロが、「**主よ、このたとえはわたしたちのために話しておられるのですか。それとも、みんなのためですか**」と言うと、

42 主は (第二のたとえを) 言われた。

「主人が召し使いたちの上に立てて、時間どおりに食べ物を分配させることにした忠実で賢い管理人は、いったいだれであろうか。

→ (新改訳) では、主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食べ物を与える忠実な賢い管理人とは、いったいだれでしょう。

→裕福な家では、僕 (召し使い) たちの上に立ち、その僕たちを管理する管理人がいた。

43 **主人が帰って来たとき、言われたとおりにしているのを見られる僕は幸いである。** 44 **確かに言うておくが、主人は彼に全財産を管理させるにちがいない** (→聖書協会共同訳:確かに言うておくが、主人は彼に全財産を任せるに違いない)。

→ (リビング・バイブル) 「では、こう言えばわかるでしょうか。主人の留守中、ほかの召使たちの面倒を見る責任を負わされた、忠実で賢い人たちに話しているのです。主人が戻った時、かいがいしく働いているところを見られるなら、ほんとうに幸いです。主人から全財産を任されることになるでしょう。

45 **しかし、もしその僕が、主人の帰りは (まだ先で) 遅れると思ひ、下男や女中 (→口語訳：男女の召使たち、聖書協会共同訳：男女の召し使い、回復訳：男のしもべや女のしもべ) を殴ったり、食べたり飲んだり、酔うようなことになるならば、46 その僕の主人は予想しない日、思いがけない時に帰って来て、彼を厳しく罰し (→cut)、不忠実な者たちと同じ目に遭わせる。**

47 **主人の思いを知りながら何も準備せず、あるいは主人の思いどおりにしなかった僕は、ひどく鞭打たれる。**

48 **しかし、知らずにいて鞭打たれるようなことをした者は、打たれても少しで済む。すべて多く与えられた者は、多く求められ、多く任された者は、更に多く要求される (→マタイ効果)。」**

→多く与えられた者は、より厳しい基準で裁かれる。

→マタイ効果

①マタイによる福音書 25 : 29

だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。

②ルカによる福音書 8 : 18b

持っている人は更に与えられ、持っていない人は持っていると思うものまでも取り上げられる。

【参考】ルカによる福音書 12:37

主人が帰って来たとき、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。はっきり言うておくが、主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる。

→「この聖句は、神の言葉全体の中で最も驚くべきものである。」(ヨハン・アルブレヒト・ベンゲル) ※

※Johann Albrecht Bengel 1687年6月24日～1752年11月2日。新約聖書の本文研究の草分け的なドイツの敬虔主義の神学者、聖書学者で、本文批評の原則を最初に確立した学者。

→敬虔主義：17世紀に、ドイツのプロテスタントが教義と形式とに墮したのを嘆いてシュペーナー (P. J. Spener 1635～1705) が創始した運動。特定の教理を遵守するのではなく、個人の神への敬虔な内面的心情に信仰の本質を見る信仰的立場で、聖書を中心として体験と実践とを強調した。

【参考】ユダヤにおける時間の捉え方

< 1 > 時間の数え方

- ユダヤ式時間の数え方：午前6時を起点「第0時」とする。
共観福音書(マタイ、マルコ、ルカ)は、この時間表記で書かれている。

例) マタイ 27 : 45

さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。【新共同訳】

From noon until three in the afternoon darkness came over all the land.【NIV】

さて正午から暗やみが全地を覆って、午後三時に及んだ。【回復訳】

Now from the sixth hour until the ninth hour there was darkness over all the land.【NKJV】

さて、第六時から闇が地上の全面を覆い、第九時にまで及んだ。【真理発見訳】

→「十二時」は、「第六時」、「(午後) 三時」は、は、「第九時」。

→NKJV(NEW KING JAMES VERSION)および真理発見訳は、ユダヤ式時間表記で訳している。

- ローマ式時間の数え方：午前0時を起点とする場合と午後0時(正午)を起点とする場合があり、文脈で判断する必要がある。
ヨハネの福音書は、「ローマ式時間」を採用しています。

< 2 > 夜回り(午後六時から翌朝六時までの12時間)の時間は、三時間ずつに四分割していた。

第一の夜回り(見張り)：午後6時から午後9時

第二の夜回り(見張り)：午後9時から午前0時

第三の夜回り(見張り)：午前0時から午前3時

第四の夜回り(見張り)：午前3時から午前6時

PM 6	PM 7	PM 8	PM 9	PM 10	PM 11	AM 0	AM 1	AM 2	AM 3	AM 4	AM 5	AM 6
第一の夜回り			第二の夜回り			第三の夜回り			第四の夜回り			
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	

例) ルカ 12 : 38

主人が真夜中に帰っても、夜明けに帰っても、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。

【新共同訳】

It will be good for those servants whose master finds them ready, even if he comes in the middle of the night or toward daybreak.【NIV】

And if he should come in the second watch, or come in the third watch, and find them so, blessed are those servants.【NKJV】

また、彼が第二の夜回りの時か、第三の夜回りの時に帰って来ても、奴隷たちがそのようなものであるのを見られるなら、幸いである。【回復訳】

彼が第二見張り時に、あるいは第三見張り時にやって来ても、彼らがそのようにしているところを見いだされるなら、その者たちは幸せです。【真理発見訳】

< 3 > ユダヤでは、一日を「朝」「昼」「第一の夕」「第二の夕」に四分割していた。

第一の夕…太陽が西に傾き始める午後三時頃から日没まで。

第二の夕…日没～暗くなるまで。